

現場を見る・知る・学ぶ

高校生の現場見学

一般社団法人福岡県建設業協会では、人材育成の一つとして、毎年5~8ヶ所、高校生による工事現場見学を支援しています。今年度は、3つの建築工事現場と2つの土木工事現場を訪問しました。



福岡工業高等学校 建築科 2年生



大牟田高等学校 建築科 2年生



福岡工業高等学校 建築科 1年生



大牟田高等学校土木科 2年生



八幡工業高等学校土木科 1年生

10/30(木)
福岡県立
福岡工業高等学校
建築科2年生
39人

住吉中ブロック小中連携校(仮称)新築工事

■発注者／福岡市

住吉中学校区において、住吉小学校・美野島小学校・住吉中学校を統合編成し、新たに施設一体型の小中連携校として生まれ変わる学校を見学しました。工事は終盤を迎え、今春2月末に終了予定。施設の特徴である地下に設置された小中学校の講堂兼体育館、2つの校舎棟、3階部分の人工地盤グラウンド等を中心に見学。生徒たちは、室内の工事現場に入った工事車両や鉄骨の多さ、現場の大きさに驚きを隠せない様子でした。現場監督の隠岐さんより、「この工事の難所は『建物規模に対して敷地が狭いこと』。児童・生徒・職員合わせて約1,000名規模に対応できるようにはなっているが、とにかく工事を進め難い。難しい仕事をやり遂げてこそ達成感がある」と熱く語っていただきました。



人工地盤グラウンドと校舎棟



地下体育館の仕上工事

屋上にあるグラウンドに驚きました。綿密に計画されたスケジュール通りに進めるのが大変そう。僕たちの時代には考えられない学校でうらやましいです。
田中大樹さん



実際の現場は、迫力があり、現代的な設計で驚きました。将来は設計士になりたいので、こんな大きな建築物を手掛けられるように頑張りたいです。
桑島直央さん



11/12(水)
福岡県立
福岡工業高等学校
建築科1年生
40人

新青果市場市場会館棟新築工事

■発注者／福岡市

福岡工業高校の建築科の1年生が見学したのは、福岡市内の3つの市場が合体し新しく生まれ変わる「福岡新青果市場」。その巨大な敷地にある「市場会館棟」に足を踏み入れた高校生40人。コンクリート躯体工事の現場では、職人による鉄筋の結束が披露され、生徒一同その速度と正確さに感嘆の声を上げていました。結束を体験すると、見た目以上の難しさに、プロの技術の高さを痛感した生徒たち。最後に「この現場見学会が自分の将来を考える上でいい機会になったと思います」と生徒がお礼を述べていました。



鉄筋の結束を体験



生徒たちからの質問も



職人による鉄筋の結束作業

土木工事の見学には個人的に行ったことはありましたが、建築の見学は初めてです。授業でできないことをいろいろ教えてもらったので、今回の経験を就職はもちろん、これからの人生の中でも生かしていきたいです。
河鍋ちはるさん



学校で習う事とは違い、現場では「対応力」が必要だと感じ、また、建設現場で実際に鉄筋の結束をさせてもらい作業の難しさがわかりました。建設業を営む父の跡を継ぎ、現場監督を目指していきたいです。
清水廉さん



11/14(金)
私立
大牟田高等学校
建築科2年生
42人

新青果市場卸売場棟新築工事

■発注者／福岡市

大牟田高等学校建築科2年生が見学したのは、新青果市場の卸売場西棟。巨大な空間で競りや売買が行われる場所です。生徒たちは、現場で披露された職人の見事な鉄筋の結束の技術に目を奪われ、施設説明では、PCを使っている3次元CADや施設内の熱や風の流れなどを表現する流体シミュレーション図の説明をうけるなど、学校では見ることができない専門性に圧倒されていました。質疑応答の後には、「元請の上田所長から『基礎の先に応用があるので今はたくさん学んでほしい』と生徒たちにアドバイスが送られました。



鉄筋の結束を体験



卸売場棟の鉄骨工事



まだ正直な話、自分の進む道を決められていないのですが、今回の現場を実感できたことで選択の幅が広がったと思います。
川山翼さん



もともと鉄筋工事に興味があったのですが、今日、直に現場を見ることができて、想いがさらに強くなりました。
吉田恵里香さん



11/28(金)

私立
大牟田高等学校
土木科2年生
40人

有明海沿岸道路
徳益高架橋上部工・大川高架橋下部工
■発注者／九州地方整備局福岡国道事務所

九州自動車道路の補完道路として計画された地域高規格道路の有明海沿岸道路。福岡県大牟田市から佐賀県鹿島市まで約55kmの長さがあります。まず見学したのは、柳川市にある連続高架橋の橋げたの設置現場。高さ数十メートルに及ぶクレーンが、長さ約26mの鉄板を持ち上げ、幅52cmしかない鉄の上を華麗に動き回ると、工さんがそれをうまくはめ込むと、生徒たちから歓声が上がりました。息が合わないといけない作業です。次に大川市にある、道路の支柱の基礎の施工現場を見学。この地域は地盤が緩いことで有名で、その緩さに対応するために直径80cmもある鉄の柱を埋め込む作業を行っていました。その大きさと、いくつもの過程や多くの人たちの手によってできる道路に感動していました。



支柱の基礎工事



橋げたをはめ込む作業



最初に見た現場では、幅52cmの現場での作業、怖さを微塵も感じさせないプロの仕事、技を見せてもらい感動しました。将来は、テッカイ橋を作りたいです。(写真:左) 増田 尚さん

一つの柱を見ても、使われる道具の多さ、関わる人の多さ、できるまでの作業工程や年月に感動しました。将来は、道路関係の仕事に就きたいです。(写真:右) 橘 佳亮さん



12/4(木)

福岡県立
八幡工業高等学校
土木科1年生
20人

遠賀川中間堰^{せき}改築工事
■発注者／九州地方整備局遠賀川河川事務所

土木科1年生の20人は、堰幅約130mの改築工事現場を見学しました。遠賀川水系河川整備計画に位置づけられている洪水対策として、現況の堰を撤去、川の断面を大きくし、制水ゲート4門、調節ゲート1門を完備した新しい堰をつくることで洪水時の水位を低下させ、治水安全度を向上させるのです。生徒たちは現場の仮設テント内で完成模型を見ながら説明を受けた後、実際の施工現場を見学。川の一部をせき止めて行う工事のスケール感の大きさに驚くとともに、寒風吹き荒れる中で進行する工事現場の厳しさをあらためて実感していました。



川底の掘削現場を見学



堰をつくるのにいろいろな工事があり、構造物をつくるのはとても大変だと感じたが、将来はこのような仕事に関わりたいとあらためて思いました。 金松 雄士さん

初めて見た堰の工事は、予想以上の大きさでした。完成までに何年もかかる事に驚きました。今日、ここで学んだ事を将来生かしていきたいです。 木野 健二さん

